

P1-040

特別支援学校に勤める看護師の現状—看護師が抱く葛藤と課題解決に向けた検討—

清水 理紗子¹⁾、宮崎 つた子¹⁾、仲野 里美²⁾三重県立看護大学 看護学部 看護学科¹⁾、
三重県教育委員会 事務局 特別支援教育課²⁾

【目的】

地域で生活する医療的ケア児が増加している中で、その子ども達の教育を保障するためには、教育と医療の連携が求められている。本研究では、教育現場の医療職者として役割を期待されている学校に勤める看護師（以下、学校看護師という）の現状を明らかにすることで、教育現場で働く看護職者に関する基礎データとする。

【方法】

A 県の特別支援学校に勤める学校看護師を対象に無記名自記式のアンケート調査を実施した。調査内容は、特別支援学校の看護師の役割に関する研究の結果を参考に構成した。調査期間は 2019 年 8 月～9 月である。対象者の属性と選択式の質問については単純集計を行い、自由記載については内容を質的に整理した。倫理的配慮として、プライバシーの保護、参加は自由意思であること等に配慮した。対象者の同意については、調査用紙の返送をもって研究協力への同意とした。なお本研究は、三重県立看護大学研究倫理審査会の承認後に実施した（承認番号 190901）。

【結果】

A 県の特別支援学校に勤める学校看護師全員の 17 名に調査用紙を配布し、13 名から回答を得た（回収率 76.5%）。全ての対象者が 10 年以上の看護師経験があり、特別支援学校での継続勤務年数は平均 2.5 年であった。また各特別支援学校に勤務する看護師数は 1～5 名であった。医療現場と教育現場での看護の違いについては、「より自分の判断に大きな責任を感じる」の項目において、全ての対象者が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した。学校看護師の役割については「子どもの安全に細心の注意を払う」の項目において、全ての対象者が「そう思う」と回答した。学校看護師が行う他職種連携の現状については、全ての対象者が「教員」と「よく連携する」と回答した。一方で、「保健師」「相談支援専門員」「訪問看護師」と「よく連携する」と回答した対象者はいなかった。

【考察】

対象者は、学校看護師としての経験が短いうえ、校内に数名しか同じ職種がない中で自分の判断に大きな責任を感じていた。このような環境下で、学校看護師は自身に期待される役割を遂行しようとする思いを抱えていたと考えられる。これらの課題解決に向けて、学校看護師を支える体制の構築を検討していくことに加え、学校看護師は教育現場で働く医療専門職者として、医療機関だけでなく、地域をつなぐ職種との連携を充実させていく必要があると考える。

P1-041

高校教諭の主観的睡眠評価とメンタルヘルスとの関連

大坪 美由紀¹⁾、榊原 愛¹⁾、岡村 祐一³⁾、鈴木 智恵子¹⁾、矢田 幸博²⁾佐賀大学 医学部 看護学科¹⁾、
筑波大学大学院グローバル教育院²⁾、
筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻³⁾

【背景】近年、精神疾患の要因により 5 千人近い教諭が休職している現状が報告されている。疲労、抑うつ、心理的ストレス意識と睡眠状態には高い相関があることから、睡眠改善及びストレス軽減が重要である。しかし、教諭のストレス、疲労、睡眠に関する報告は少ないため、本研究では高校教諭の主観的な睡眠及びメンタルヘルスの実態とそれらの関連を明らかにすることを目的に検討した。

【方法】令和元年 12 月、A 県の高等学校 3 校に勤務する教諭を対象に質問紙調査を実施した。調査項目は睡眠評価：アテネ不眠尺度、ピッツバーグ睡眠質問票（以下 PSQI）、ストレス評価：SCL-30、不安評価：STAI、抑うつ評価：SDS、健康関連 QOL の評価：SF36 である。統計解析は t 検定及び Mann-Whitney の U 検定、Spearman 順位相関分析（SPSS ver23.0）を行った。

【倫理的配慮】本研究は佐賀大学倫理委員会承認後、高校教諭の承諾を得た上で実施した。なお、利益相反に関連して報告すべきことはない。

【結果】38 名が質問紙調査を実施、有効回答は 37 名（有効回答率 97.4%）であった。男性 17 名、女性 21 名、平均年齢 41.8 ± 10.8 歳。現在、喫煙あり：9 名、飲酒あり：17 名であった。アテネ不眠尺度の平均点は 4.3 ± 3.2 点、不眠症の疑い（6 点以上）の教諭は 10 名（26.3%）であった。PSQI の平均点は 5.1 ± 2.8 点、睡眠障害（6 点以上）と判断される教諭は 12 名（31.6%）であった。尺度の平均点は SCL-30：5.6 ± 4.3、STAI：41.8 ± 11.5 点、SDS：9.6 ± 8.5 点、SF36 サマリースコア：身体的健康度 50.4 ± 7.5 点、精神的健康度：48.8 ± 9.8 点、役割／社会的健康度面：49.4 ± 8.9 点。飲酒及び喫煙する教諭は、精神的健康度が有意に低かった（ $p < 0.05$ ）。飲酒する教諭は、役割／社会的健康度面が有意に高かった（ $p < 0.01$ ）。睡眠と SCL-30（ $r = 0.43$, $p < 0.01$ ）、SDS（ $r = 0.57$, $p < 0.01$ ）、SF36 の精神的健康度（ $r = -0.62$, $p < 0.01$ ）に相関を認めた。

【考察】本研究では、高校教諭の約 3 割が主観的な睡眠意識に問題を抱えていること、さらに睡眠状態の悪化が状態不安やストレス意識に関連していることが明らかになった。ストレス軽減には、睡眠の質の確保と睡眠の質の向上が求められると考える。